

あすなろ

2023年10月6日

みみレター

第6号

兵庫県立姫路聴覚特別支援学校

校内支援部 (文責 足立)

スポーツの「音」新技術で見える、感じる デフリンピックへ続々

東京パラリンピックから2年。そして、「聴覚障害者の五輪」ともいわれるデフリンピックが2年後に国内で初開催されるのを前に、試合の興奮をさらに感じられる技術が続々と開発されています。スポーツ観戦のバリアフリーが広がるでしょうか。

「カッ」「スパーン」「がんばれ！」

卓球の試合を伝える画面に、こんな文字が重なる。

無音でも、テレビやスマートフォンの画面を通じて

球の行き交う音や声援が伝わってきます。カラフルな

文字が漫画の一場面のようにデザインされていて、

目をひきます。

伝わる興奮、どうやって？

「雰囲気・応援可視化システム」と名付けられた技術。試合会場の音や声援をAI（人工知能）に

学習させて、「オノマトペ」（擬態語）として画面に映します。

オノマトペのデザインを手がけたのは、株式会社「方角」（渋谷区）。聴覚障害に特化した求人サイトやウェブデザインの制作を手掛けるスタートアップ企業で、従業員8人のうち5人が聴覚障害の当事者です。同社代表の方山れいこさん（31）は「聞こえる人と聞こえない人で分け隔てられる社会は生きづらい。当事者の声を活かしたデフリンピックになるよう、力になりたいと思った」と話しています。

経費10万円ほどで、会場内で楽しめる設備を整えられます。

今後は、対応する競技や言語を増やしたり、離れた場所でも

見られたりできるよう技術開発を進めるそうです。

デフリンピックへ向けては、他にも「ネックレス型振動デバ

イス」や「見える補聴器」など様々な技術が開発されています。

国内初開催「ろう者の五輪」のエンブレム決定、 投票で支持を集めた大学生の作品に決定

2025年に東京都内を中心 開催される、耳の聞こえないアスリートによる国際スポーツ大会「デフリンピック」のエンブレムが9月3日、決まりました。人々がつながる「輪」を表現したデザインで、制作したのは聴覚に障がいのある学生。中高生による投票で最も支持を集めました。



選ばれたのは、筑波技術大産業 技術学部4年の多田伊吹さん（21）の作品。手話に欠かせない「手」を一筆で「輪」のように描き、書き終わりの親指は「花」で表現。「競技と話題に触れることで人々が『輪』のようにつながった先に、未来という『花』が咲く」という意味だそうです。赤、黄、青、緑の4色に多様性のある社会への願いもこもっています。多田さんは「得意なデザインで大会に貢献したかった。時間をかけて完成させたのでとてもうれしい」と話しました。エンブレムの制作は、大会を招致した一般財団法人「全日本ろうあ連盟」が、聴覚に障がいのある学生が学ぶ同大に依頼しました。37案が寄せられ、商標 調査などを経て、多田さんの作品に決まりました。

出典：朝日新聞デジタル

ほ ちよう き てん らい こう び 補聴器店 来校日

< 13:10~ 通級教室 >

□神戸ヒヤリングセンター	10月12日(木)	10月26日(木)
□トーシン姫路補聴器センター	10月6日(金)	10月20日(金)

補聴器の故障や買い替え、作りの作り替えの際は、補聴器店 来校日を確認して、担任にお申し出ください。